

4-11 ウエペケレ「パシクルトノ ヤニ アコロ」解説

語り手：貝澤とうるしの
聞き手・解説：萱野茂

萱野：paskur tono yani a=kor [カラスの神をもう少しで私が（婿に）持つところだった] というんだな。

貝澤：うん、paskur_ tono yani a=kor [カラスの神をもう少しで私が（婿に）持つところだった]。

paskur_に i=ye wa ora kira=an wa san=an pe ne sekor [カラスに（嫁にほしいと）言われて、逃げて山を下りてきたのだと]

萱野：わたくしは兄に

貝澤：pon horkew [子狼] だとその os san seta koyki p は pon horkew [後から下りてきて犬と戦ったのは子狼]

萱野：あーなるほど、なるほど

貝澤：その女助けた……

萱野：その pon seta [子犬] は

貝澤：poyseta [子犬] は horkewkamuy poho [狼神の息子] だか matnepoho [娘] だかその女助けるに [助けに]、その seta etoko tuye [犬の邪魔する (?)] して

萱野：あーなるほど。

わたくしは兄に育てられて成長した1人の娘でありました。兄は狼の名人であったので何不自由なく生活をしておったと。

ある日のこと1人の若者が私たちの家をたずねて来て、何日か泊まっておってから言うことの、言うことには「あなたの妹、わたくしの嫁にくださいや。」と言う。

兄は黙って考えておってから「実はこうしてたった2人で生活しておるといのは昔々、わたしら子どもの頃に、川へ小魚をすくいに行っておる間に、わたしたちの村が何かその悪いものに襲われて全滅させられたと。川へ小魚をすくって帰って来てみると、村へ、村へ帰って来てみると、村では知らない人たちがばかりが大勢おって、おるのを見て、それですっかり恐ろしくなって村へは帰らずに、とうとうこうして村はずれに小さな家を建てて私たちは生活しておったのですよ。だからあなたがどっから来たか知りませんが、お嫁にやるということは出来ません」と言ったら「まあ父もおるし母もおるから私の家へ来てみて、もしよかったらお嫁にくださいや」そう、「そうまで言うんなら、じゃあ妹行ってその家を見て来なさい」と言ったので、その男に連れられてわたくしは山の方へ行ってみた。

ズンズンズンズン里の方へでなく山へ入って行く。そうすると行き先へ iuta [搗き物をする] って物、米を搗いたりヒエを搗いたりそういう音、あるいは大勢の人声がする。ずうっと山へ行ってみると一軒の家があって、その側では若い娘や他の人たちがいろいろな仕事をしておった。そしてその仕事をしておるの見ながら家の中へ入ってみた。

そうすると、そこでは年寄り夫婦だけど立派な人たちが2人おって、こう辺りをこう見回して見ると壁にかかっているのは魚の屑とかあるいはその、普通の鹿とか熊の内臓のちょっと一部分というような物だけが下がっている。

そればかりもその不思議に思って黙っていたら、そのお爺さんの言うのには「私たちの motoho [素性] いわゆる、生い立ちを隠すということも悪いから、あなたに言いますが、私たちはカラスですと。カラスでもこうして人間になって生活することがあるので、私の息子はどうしてもそのあなたをお嫁に欲しいからと言うので、それでは行って訊いて、もしくれると言ったらもらいなさい、と言ったら、息子が1人で出かけて行ったのに、あなたが幸いにこうしてついて来てくださったんですねと、まあ氏素性を隠すということは嫌ですから、あのちゃんと知らせますが、よかったらお嫁に来てください。」と言われました。

私はすっかり驚いて、「まあ家へ帰って兄に相談してまだ(また)出直してきますよ。」と言いながら外へ出た。そうすると大きな犬が1匹とび出して来て私を家の方へ向けまい向けまいとする。それでも私はしゃにむに家の方へ行ったら途中で1匹の小さな犬がおって、私を追いかけて来た。その犬を追い散らし蹴散らすようにして「もう来るんでないよ、来るんでないよ」と言うのを聞きながら一目散に家へ帰ってきた。

兄にそのことを報告すると兄は「あーそうであったか、それはそれは帰ってきてよかった」と言いながら「それではここでおるということも、もう嫌なので別の方へ村を移しましょう」と言って持ち物を荷物にくるんでそして自分の家はすっかりその火を付けて燃やしてしまって、隣村へ私たちは引っ越ししました。

そしてそこで私も新しくいいお婿さんをお願い姉……兄もいいお嫁さんをもって楽しく生活をしておりました。ということですね。

今のはこれ uepeker [散文説話] ですけれども、カラスがお嫁をもらいに行ったという、

貝澤：あの nanu a=nukar kusu etu eun ruwe ka sinnayno an sik eun ruwe sinnayno an wa kusu a=eramunkeray(?)だつて a=yupihhi 言って……
(?) [顔を見ても鼻の付き具合も目の付き具合も普通ではないので
(?) と兄が言って]

萱野：あーなるほど。兄の言うのには顔を見たら鼻の付き具合も目の付き具合もよくないので、さっそく返事しなかったのだよ。だから氏素性の分からない者がお嫁に欲しいと言った時でもさっそく「はい」と2つ返事で決してするものではありません。とその男の人も女の人も言いました、と。

そして助けてくれた小さい形の犬は horkewkamuy 狼の神様でありました。もちろんその神様に inaw [イナウ] をもってお礼をしたことは言うまでもありません。

今のはこれ uepeker [散文説話]。